

(様式第4号)

上田市生涯学習基本構想策定委員会 会議概要

審議会名	上田市生涯学習基本構想策定委員会
2 日 時	令和7年5月26日 午後3時00分から午後5時30分まで
3 会 場	市役所本庁舎 4階 庁議室
4 出席者	酒井真由子会長、関和幸副会長、宮下俊哉委員、山崎順子委員、小平千文委員 滝沢正幸委員、窪田富子委員、小林眞由美委員、坂口純一委員、宮島哲也委員、 竹田貴一委員、橋詰正委員、松井幸夫委員、柳沢泉委員
5 市側出席者	池田清純教育次長、佐藤文昭生涯学習・文化財課長、中沢博人権同和教育政策幹、 田中彰中央公民館長、久保田政博丸子地域教育事務所長、 宮島剛真地域教育事務所長、若木はづき武石地域教育事務所係長、 金田早苗上田図書館長、春原茂文化政策課長、宮下広志スポーツ推進担当係長、 横田知里生涯学習係長、荒井美貴生涯学習係主事
6 公開・非公開	☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和7年6月10日

協 議 事 項 等

- 開 会（横田生涯学習係長）
 - あいさつ（酒井会長、池田教育次長）
 - 新任委員・事務局職員自己紹介
 - 会議事項
 - 第三次上田市生涯学習基本構想（案）について
 - ・**資料1** **資料2**に沿い、横田係長から第三次生涯学習基本構想（案）の全体的な構成と基本理念、基本方針について説明
- （委 員）
- この構想では、生涯学習をどのようにとらえているのか。
- （事務局）
- 生涯学習は、本来は学校教育等も含めた生涯にわたる学習。ただし、上田市生涯学習基本構想の策定していくうえでは、少し狭い範囲で考えている。行政として取り組んでいける範囲で、個人を豊かにすることにとどまらず地域づくり等につながるような学習を主として考えていきたい。
- （委 員）
- 第一次、第二次の基本構想はどのような文面で始まっているのか。生涯学習に関する市民意識調査の結果では「上田地域の生涯学習の先駆的な活動といえる上田自由大学（理念）を知っているか。」との問いに、知っているが15.7%、聞いたことはあるけれども良くわからない30.4%、知らない53.7%の回答であり、知らない方が多い。今後知らない方が増えていくのではないか。この地域の歴史をふまえた基本構想をつくることも大切な事であり、先駆的な活動である上田自由大学等について一行でも入れてほしい。
- また、SNSの活用等について非常によい意味での評価のもと記載がされているが、必ずしもよい面ばかりでなく規制していくような状況も出てきており、議論が必要だと考える。
- （事務局）
- 第一次では、「学び 育ち ひと輝く」の基本理念のもと、基本目標を「だれもが学べる生涯学習」「成果を生かせる生涯学習」「学びをつなげる生涯学習」として取組を進めた。第二次では、「学びをつむぐ まちづくり」の基本理念のもと、基本目標を「だれもが学べる生涯学習」「学びをつむぐ生涯学習」「学びが生きる生涯学習」として取組を進めた。第三次では、基本理念の案を「学び 学びあい 未来を創造する」としている。言葉の表現は異なっているが、全体的には同じような考え方を引

き継いでいると考えている。また、第二次では第1章の中で「上田自由大学の精神に学ぶ」として1ページほど記載している。

第三次案では、基本理念の「学びあい」という表現について上田自由大学の精神をベースに言葉を選んだ経緯はあるが、具体的に上田自由大学の精神にふれる記載はしていない。記載をするかどうか含め、今後検討していきたい。

SNSの活用等について、よい面ばかりではないが、有効に活用できるところは活用していくことも大切に考えていきたい。

(委員)

第三次総合計画の施策大綱も読むなかで、総合計画の各分野について市民レベルでも一緒に取り組んでいく、協力しながら進めていくために、知る、学ぶ必要がある。そういう意味での生涯学習というイメージでいたが、いかがか。

(事務局)

今回、第三次基本構想案ということで、第1章で計画策定の趣旨等を記載し、第2章で第二次構想の検証や市民意識調査による現状の課題等を記載し、これらを踏まえ第3章で基本理念、基本方針を記載している。

この基本理念、基本方針は、基本構想の上位計画にあたる第三次総合計画における6つの視点を落とし込みながら作成をしている。提案をした基本理念、基本方針について皆様から忌憚のないご意見をいただきたいというのが本日の趣旨。

(委員)

基本理念、基本方針についての議論とのことだが、その他の部分についても、この場で出た意見等は盛り込んでいただけるのか。

(事務局)

時間的な限りはあるが、あくまで案として提案しているため、その他の部分についても御意見をいただきたい。

(委員)

第2章の2「本市の生涯学習をめぐる現状（生涯学習に関する市民意識調査結果から）」のなかで、囲みで課題が記載されており、何々が必要ですと文章が結ばれているものが多くあるが、それは課題ではなく結論ではないか。また、課題が見て取れないのであればあえて書かないという選択もあるのではないか。

調査結果から見える課題として記載があるが、調査結果からすぐに読み取れる結果というよりは深読みしていると感じる内容やどのような判断でこういう分析をしているのかと感じる内容がある。

(事務局)

第2章の2では主な設問の調査結果を掲載している。実際調査では、公民館等の各施設に関する設問などもあり、そうしたその他の内容も加味したうえでの課題を記載している。深読みと感じられるところ等含め、課題についての表現方法について検討したい。

- ・3つのグループに分かれ、基本方針1から3で考えられる具体的な取組内容について、個々の意見を所定の用紙に書き、模造紙に貼りだしながら意見交換（グループワーク）

5 事務連絡

- ・第4回策定委員会 7月28日（月）15時からを予定

6 閉 会（横田生涯学習係長）